

令和5年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立海道小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和5年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和5年4月18日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 英語, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 28 人

② 算数 28 人

5 留意事項

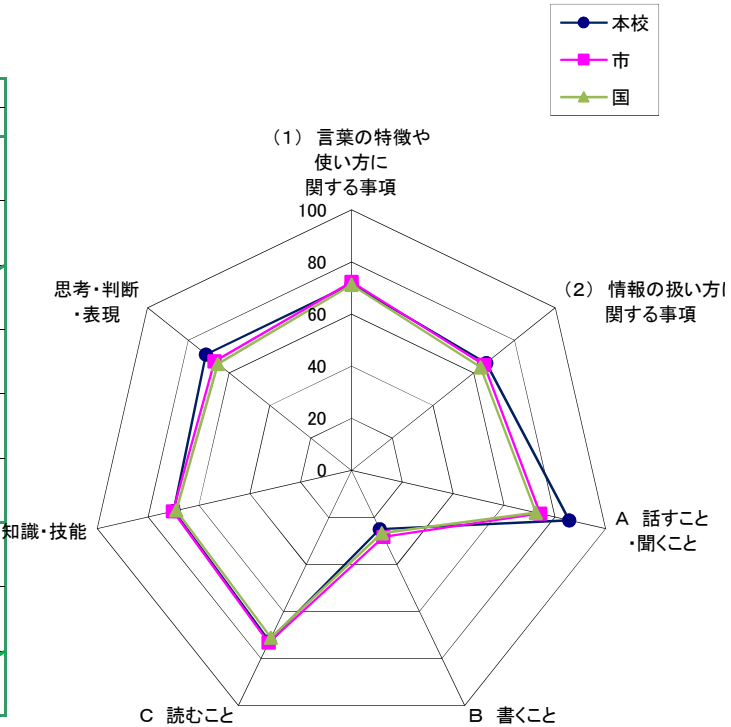
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立海道小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	71.4	72.3	71.2
	(2) 情報の扱い方に関する事項	66.1	65.0	63.4
	(3) 我が国の言語文化に関する事項			
	A 話すこと・聞くこと	85.7	74.2	72.6
	B 書くこと	25.0	28.2	26.7
	C 読むこと	72.6	73.3	71.2
観点	知識・技能	69.9	70.2	68.9
	思考・判断・表現	71.4	67.2	65.5
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

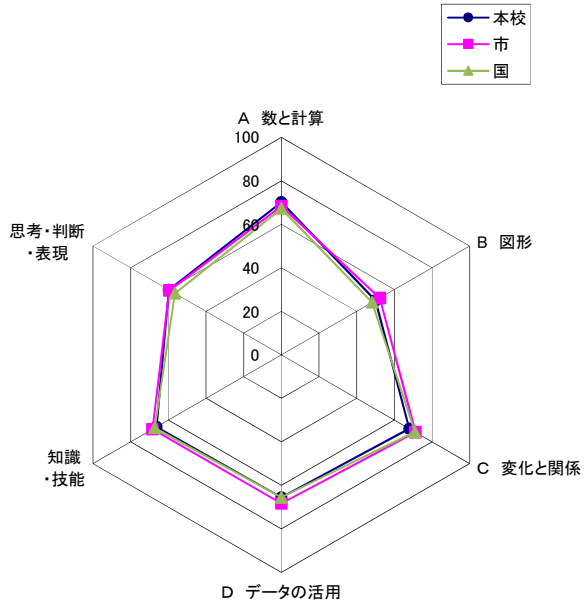
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使い方に関する事項	平均正答率は、全国平均とほぼ同じである。 ○送り仮名に注意して、漢字を文の中で正しく使う問題の正答率は100%で、全国平均を6.9ポイント上回っている。 ●文章の種類とその特徴について理解する問題の正答率は71.4%で、全国平均を8.4ポイント下回っている。	・熟語の意味や用法を確認しながら漢字の学習を進めるなどして、今後も文の中で正しく漢字を使うことができるようにする。 ・日頃から様々な種類の文章に触れる機会を多くもたせ、特徴を正しく捉える活動を取り入れていく。 ・読書の奨励、言語の特徴や使い方に関する課題内容の工夫などにより、語彙力を高めていく。
(2) 情報の扱い方に関する事項	平均正答率は、全国平均より2.7ポイント高い。 ○情報と情報の関係付けの仕方、図などによる語句と語句の関係の表し方を理解し使う問題の正答率は71.4%で、全国平均を9.4ポイント上回っている。 ●原因と結果など情報と情報の関係について理解する問題の正答率は60.7%で、全国平均を4.0ポイント下回っている。	・様々な資料から必要な情報を選択し、適切に活用する学習活動を多く取り入れ、情報を整理、分析する力を高めていく。 ・原因と結果を表す短文作りを通して、情報と情報の関係付けの仕方を確実に理解することができるようにする。
A 話すこと・聞くこと	平均正答率は、全国平均より13.1ポイント高い。 ○必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉える問題の正答率は87.5%で全国平均を13.7ポイント上回り、目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめる問題の正答率は82.1%で、全国平均を11.9ポイント上回っている。	・今後も各教科の授業で話し合い活動を効果的に取り入れていく。 ・話し合い活動では、話し手の意図を考えながら自分の考えと比較して聞き、必要に応じてメモを取り考えを整理し、質問をするなどして話し合いを深めることができるようにする。 ・「海道小スタンダード」を活用して、話し方・聞き方指導の徹底を図る。
B 書くこと	平均正答率は、全国平均より1.7ポイント低い。 ●図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する問題の正答率は25%で、全国平均を1.7ポイント下回っている。	・自分の考えを書く際には、事実と感想、意見と理由を区別する、文章全体の構成や展開を考える、説得力のある根拠の挙げ方を考える、効果的な資料の使い方を考える、条件に合わせて書くなど、書き表し方を工夫して、筋道の通った文章を書くことができるよう指導する。 ・授業中だけでなく、各行事の振り返り、日記など、日頃から自分の考えを書く活動を多く取り入れ、自分の意図を分かりやすく相手に伝えることを意識して文章を書くことができるようにする。
C 読むこと	平均正答率は、全国平均とほぼ同じである。 ○文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめる問題の正答率は64.4%で、全国平均を8.1ポイント上回っている。 ●目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約する問題の正答率は85.7%で、全国平均を4.3ポイント下回っている。	・文章の構成を意識しながら、書かれている内容を的確に読み取り、必要な情報のみ抜き出して要約する活動を多く取り入れていく。 ・文章を要約した後に自分の考えをまとめる活動を通して、様々な情報を用いて自分の考えを深めていけるようにする。 ・各教科の学習において、文章や図表などを結び付けて必要な情報を見付ける活動を取り入れ、資料を活用した読み取りの力を高めていく。

宇都宮市立海道小学校第6学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	70.2	68.4	67.3
	B 図形	50.0	52.2	48.2
	C 測定			
	C 変化と関係	67.9	71.2	70.9
	D データの活用	65.5	68.3	65.5
観点	知識・技能	66.3	68.4	67.2
	思考・判断・表現	59.7	59.4	56.5
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	平均正答率は、全国平均より2.9ポイント高い。 ○示された場面を解釈し、小数の加法や乗法を用いて求めることができる理由を記述し、その結果から条件に当てはまるかどうかを判断する問題では、正答率が71.4%で全国平均を14.7ポイント上回っている。 ●()を用いた式や、加法と乗法の混合した式を場面と関連付けて読み取る問題では、正答率が64.3%で、全国平均より6ポイント低い。誤答から四則の混合した式や()を使った式の意味の理解が不十分であることが分かる。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・基本的な計算の定着に向けた練習を朝の学習や宿題等で継続的に行うとともに、文章問題を読み取る力を高め、式に表す力を育んでいく。 ・知識として身につけたことを活用する力を伸ばすために、他の領域や他の教科と関連させた問題を取り上げたり、日常生活に生かすことのできる活動を行ったりしていく。
B 図形	平均正答率は、全国平均より1.8ポイント高い。 ○テープを直線で切って、様々な図形を作り、その図形の名前や性質を問う問題では、図形の名前はよく答えることができています。 ○高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述する問題では、正答率が42.9%ではあるが、全国平均より22.1ポイント上回っている。 ●切った開いた三角形を正三角形にするために、テープを切る時の角の大きさを書く問題では、正答率が14.3%と低く、全国平均と比較しても10.6ポイント低い。図形の形はイメージできているが、図形の構成要素や性質の理解に課題が見られる。	・図形を構成する要素に着目して、図形の意味や性質を基に、作図の仕方を多様に考えることができるようにするために、コンピュータを用いて図形を作図するプログラムの作成などを授業に取り入れ、学び合いの中で児童自身でアイデアを出し合いながら様々な見方や表現の仕方があることに気付かせたりしていく。 ・図形を活用する力を伸ばすために、日常生活の中で隠れている図形を取り上げる機会を増やし、身に付けた知識を活用することができるようにする。 ・学び合いを通して、図形の見方や考え方を深めるために、図の操作と言葉を関連付けて表現できるように指導していく。
C 変化と関係	平均正答率は、全国平均より3ポイント低い。 ○伴って変わる二つの数量について、表から変化の特徴を読み取る問題では、正答率が96.4%と高い。全国平均よりも2.9ポイント上回った。 ●示された基準量と比較量から、割合が30%になるものを選択する問題では、正答率が35.7%で、全国平均より10.3ポイント低い。	・割合を用いて問題を解決するために、日常の具体的な場面に対応させながら割合について理解したり、テープ図や数直線などの図、式などを用いて基準量と比較量の関係を表したりすることを大切にしていく。 ・具体的な場面を示し、伴って変わる二つの数量を見出す活動を大切にすることで、表に整理するよさに気付かせるとともに、多様な見方をさせることで規則性を見出す楽しさにふれさせ、関数的な見方や考え方の基礎を養っていく。
D データの活用	平均正答率は、全国平均と同等であった。 ○二次元の表から、条件に合う数を読み取る問題では、正答率が67.9%で、全国平均より3.3ポイント高い。 ●示された棒グラフと、複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み、見出した違いを言葉と数を用いて記述する問題では、正答率が53.6%で、全国平均より2.6ポイント低い。	・日常生活の事象について、目的に応じて、必要なデータを収集し、観点を決めて分類整理し、データの特徴や傾向に着目して考察する学習を取り入れていくことで、統計的な問題解決の方法で考察できるように思考を育んでいく。 ・新聞や広告などを利用して様々なグラフを取り入れ、状況に応じて最適なグラフを選択できるようにそれぞれのグラフの特徴を理解させる。 ・グラフの中から読み取ったことをグループで共有し合い、学び合いを通して多面的な見方があることに気づかせるとともに目的意識をもって取り組むことができるようにする。

宇都宮市立海道小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「自分には、よいところがあると思いますか」「将来の夢や目標を持っていますか」の質問に対する肯定的回答が93.3%で、どちらも県及び全国の割合を上回った。今後も、児童が自分のよいところを認識できたり、夢や目標を考えるきっかけになるような様々な経験ができたりするような学校生活を送れるようにしていく。

○「今住んでいる地域の行事に参加していますか」「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」は、どちらも肯定的回答の割合が県及び全国を上回った。引き続き、生活科や社会科、総合的な学習の時間、学校行事等を中心に、住んでいる地域について知ったり理解を深めたりすることができる活動を行っていく。

○「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」は、どちらも肯定的回答が100%であった。今後とも、児童の自己肯定感を高める声掛けや指導を行いながら、自他ともに大切にできる思いやりの心を育てていく。

○「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか(学校の授業の予習や復習を含む)」に対する肯定的回答の割合が県及び全国を上回った。週ごとに学習や課題の予定を児童に示し、見通しをもって取り組めるようにしている成果だと考えられる。中学校では、より自分で計画的に学習に取り組む力が求められることから、今後もその力を伸ばしていけるようにする。

●「学習した内容について、分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」では、肯定的回答の割合が県や全国の平均を下回った。学習した内容をそのままにせず、次の学習につなげていけるよう声掛けをしていく。

宇都宮市立海道小学校（第6学年）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
定着を図るための学習活動の充実	単元及び授業の導入の場などで、前学年までの内容や既習事項を確認する機会を設定したり、視聴覚教材を活用し進んで学習に取り組むような学習活動を工夫したりすることにより、定着を図っている。	国語の「話すこと・聞くこと」の領域においては、正答率が全国と比べて大きく上回った。しかし、「書くこと」の領域においては、全国の平均を下回った。自分の思いを伝え合うだけではなく、書き表すことができるよう表現力の育成を図っていきたい。算数の「数と計算」の領域においても、正答率が全国を上回った。
対話的な学びを通して、共に高め合える集団作り	協働的な学び合いを通して、他者の意見や考えに触れ、自分の考えを見直す活動を大切にすることで、深い学びの実現を図っている。	児童質問紙調査の「学級の友達との間で、話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の肯定的回答は93.3%で全国よりも11.5ポイント上回った。
児童が自分で成長を実感できる振り返り活動の工夫	単元や内容のまとまりを見通した授業展開と見通しと振り返り活動を重視した授業作りを行う。また、児童一人一人のがんばりやよさを見取り、教師が価値づけをすることで、児童が自分で成長を実感できるような支援をし、自信をもって学びを深める児童の育成に努めている。	「学習した内容について、分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている」の肯定的な回答率は、全国を下回った。「自分には、よいところがあると思う」や「先生はあなたのよいところを認めてくれている」の質問の肯定的回答は高く、どちらも全国を上回った。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
国語の領域においては、「書く」の領域の正答率が25%と低く、全国平均と比べても1.7ポイント低い。その他、文章の中で正しく漢字を使ったり、文章の種類とその特徴について理解しているかを見たりする問題の中で、全国平均よりも8ポイント以上低いものがあった。	自分の考えを分かりやすく表現する(書く・説明する)力を育成するための言語活動の充実を図る。	授業において、自分の考えや主張を記述する機会を意識的に設けたり、他者の意見に理由を加えて話し合ったりする活動を取り入れることにより、表現力の育成を図る。 目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、図表やグラフなどを用いて書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する学習を行う。